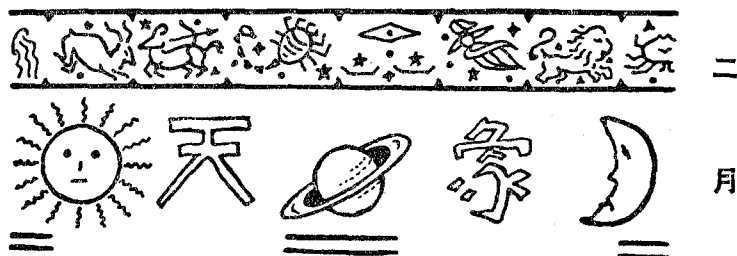


| | |
|-------------|---|
| Title | 天象 |
| Author(s) | |
| Citation | 天界 = The heavens (1932), 12(130): 68-71 |
| Issue Date | 1932-01-25 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/161753 |
| Right | |
| Type | Departmental Bulletin Paper |
| Textversion | publisher |

一九三二年



太陽

| 日 | 赤 緯 | 赤 緯 | 視直徑 | 星 座 |
|-----|-----------|---------|--------|---------|
| 1 | 20時54分 1秒 | 南17度28分 | 32分31秒 | や ぎ |
| 11 | 21時34分17秒 | 南14度27分 | 32分28秒 | や ぎ |
| 21 | 22時13分15秒 | 南11度 1分 | 32分24秒 | み づ が め |
| (2) | 22時51分 7秒 | 南 7度19分 | 32分19秒 | み づ が め |

太陽は月始めは寶瓶宮に在るが、20日より雙魚宮に入る。太陽の赤緯は次第に高くなつて來て、來月21日には 丁度零度となる。視直徑は次第に小となつて、平均値に近くなつて來た。日の出は、1日は6時57分、11日は 6時49分、21日は6時38分、3月2日は6時25分。日の入は、1日は5時25分、11日は5時35分、21日は5時44分、3月2日は5時54分。晝間の長さは月始め10時間28分であるが、月末には 11時間25分となる。

月

| 月の相 | 時 刻 | 視直徑 | 星 座 |
|-------|-------------|--------|-------|
| 新 月 | 6日午後11時45分 | 30分41秒 | や ぎ |
| 上 弦 | 15日午前 3時16分 | 29分54秒 | ひ つ じ |
| 満 月 | 22日午前11時 7分 | 32分44秒 | し し |
| 下 弦 | 29日午前 3時 3分 | 31分52秒 | さ そ り |
| 遠地點通過 | 12日午後 2時42分 | 29分34秒 | う を |
| 近地點通過 | 24日午前10時30分 | 33分 2秒 | を と め |
| 昇交點通過 | 10日午前11時 6分 | 29分45秒 | う を |
| 降交點通過 | 24日午前 7時18分 | 33分 2秒 | を と め |

本月の月の出は、1日は午前2時9分、6日は午前6時48分、11日は日午前8時59分、16日は午前11時21分、21日は午後4時46分、26日は午後10時47分、3月2日は午前3時17分。月の入は、1日は午後0時1分、6日は午後5時5分、11日は午後9時57分、16日は午前1時53分、21日は 午前6時9分、26日は午前8時43分、3月2日は午後0時42分。

遊 星 界

水 星 月始めは曉の星で、 ϵ 座 50番星附近にあるが、順行を續けて月末には ϵ みづがめ γ 座 δ 星附近に到る。尙27日午前6時に太陽と外合となるので、其以後は宵の西天に廻る。且つ其の頃は觀望は不能であるから、見るのは月始め程よい。月始めには地球からの距離が一億九千四百キロメートルあつて、小望遠鏡で見ると、十三日月位ひに缺けて見える。

| | |
|-------------|----------------------------|
| 1日午前9時の位置は | 赤經19時43分16秒9, 赤緯南22度30分32秒 |
| 15日午前9時の位置は | 赤經21時16分22秒2, 赤緯南18度1分2秒 |
| 29日午前9時の位置は | 赤經22時52分37秒7, 赤緯南8度59分0秒 |

視直径は月始め5秒 ϵ であるが、月末には4秒9となる。光度は γ 0.5等程である。

金 星 宵の明星として、今後三四ヶ月の間は觀望に適する。大體の位置は、月始め ϵ みづがめ γ 座 ϕ 星附近にあるが、次第に順行して、月末には ϵ うを γ 座と星附近に達する。日々に、宵の西天に高くなつて行くから月末程觀望には都合がよい。地球からの距離は次第に近くなつて行き、月始め一億九千萬軒であるが、月末には一億五千萬軒となる。

| | |
|-------------|---------------------------|
| 1日午前9時の位置は | 赤經23時9分42秒2, 赤緯南6度43分35秒. |
| 29日午前9時の位置は | 赤經1時11分15秒4, 赤緯北7度48分44秒. |

視直径は月始め13秒3, 月末には15秒5となる。光度は γ 3等半である。

火 星 1日に太陽と會合してそれ以後は曉の星となる。併し尙太陽の光芒中にある爲め今月も觀望には適しない。

木 星 宵に既に東に高く現はれ7日夜半に太陽と對衝となるので、此の時は地球からの距離が最も近く六億五千萬軒となるので觀望の好期である。

| | |
|-------------|---------------------------|
| 1日午前9時の位置は | 赤經9時25分5秒2, 赤緯北16度12分23秒, |
| 29日午前9時の位置は | 赤經9時10分57秒4, 赤緯北17度19分0秒, |

視直径は月始め42秒2で、7日は42秒3, 月末は41秒3である。光度は γ 2等1である。

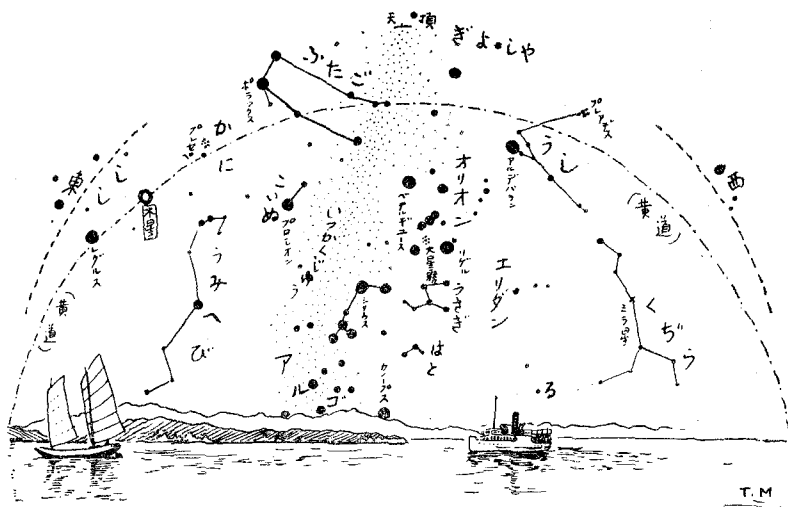
土 星 曉の東天にあるが太陽光芒中にあつて、觀望には不適當である。月末には少しは見得る様になる。月末の位置は ϵ ひつじ γ 座 α 星附近、光度0.8等。視直径13秒8。

天 王 星 宵の星ではあるが、月末に西天に低くなる。程觀望には不便。月始めの位置は ϵ うを γ 座 ϵ 星附近。光度6等2。視直径3秒4。

海 王 星 宵の東天の星で、 ϵ しし γ 座49星附近、光度7等7, 視直径2秒6。

冥 王 星 宵の星 ϵ ふたご γ 座 δ 星に近い。光度15等。

注意：本欄の恒星の名は古賀恒星圖に依る。

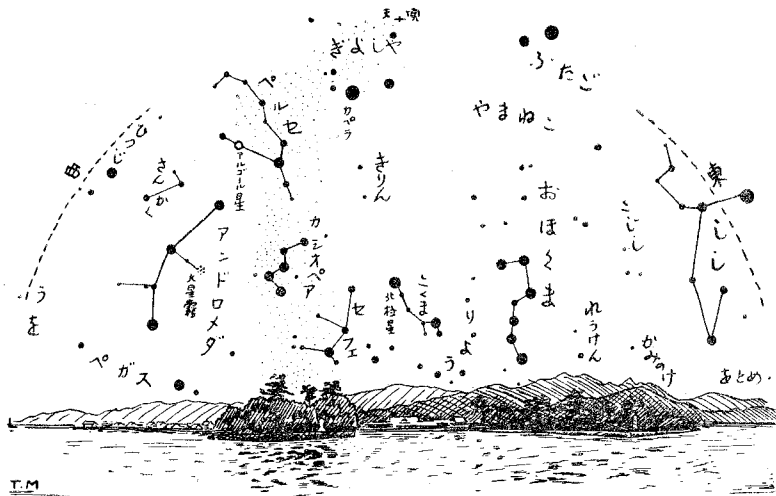


恒 星 界

雪雲の去つた後の清く澄み渡つた天空にきらめく星は、一しを身に迫る感を與へる。スキに疲れた身體を、温泉にひたしながら、窓越に眺める空の景色も、亦た格別であらう。併し、寒風に吹きさらされながら、外套に包まれて、じつと星を見つめる観測者としての雄々しい姿には、盡きぬ興味を覺えるものがある。

「ベガス」が西に沈んで、「ふたご」「ぎよしゃ」が天頂に座を占め、「オリオン」や「おほいぬ」が南に高く懸ると、冬も最中の感じを一層深める。一年中で、此の冬の星座程賑やかで、印象の深い星の形はあるまい。カペラ、ポルツクス、ベテルギウス、アルデラン、プロシオン、リゲル、レグルス、シリウス等の一等星が天一ぱいに擴がつて、「冬の星座」國萬歳でも稱へてゐる様である。

變光星 アルゴル星はまだ高く、観測には都合よいので、今月の極小時期中、観測し得る時を「天文年鑑」より寫してみやう。2日午後11時54分、5日午後8時48分、20日午前4時48分、23日午前1時42分、25日午後10時30分、28日午後7時24分。——更らに、長週期肉眼的變光星の今月中に極大豫定となる3個の星を列記すると、「とも」座 I_{22} 星は20日に3等1に、「アンドロメ」座R星は22日に5等6に、「しし」座R星は29日に5等0になる豫定である。



太陽系

今月の天象は、1日午後3時に火星が太陽と會合。同日午後7時に水星が遠日點通過、3日午後8時に水星と土星と會合。5日午前11時19分に土星と月と會合、同日午後4時13分に水星と月と會合。6日午後7時49分に火星と月と會合となり、翌7日夜半に木星は太陽と對衝、即ち此の頃木星は地球に最も近くなつてゐる。越へて10日午前6時15分に金星と月と會合で、金星が南側1度足らずの所にある。翌11日午後11時30分天王星と月と會合。其の後暫らく何事もなく、21日午前6時41分に木星と月と會合。満月に近い月と並んではずがの木星も影が薄くならう。同日午前10時に水星と火星と會合となり、翌22日午後5時40分に海王星と月と會合。26日午後7時に海王星は太陽と對衝となり、翌27日午前6時に水星は太陽と外合となる。今月は二星が非常に近く並ぶ様な「會合」がなく、最も近いのでも10日の金星と月との1度足らずの會合がある許りである。

彗星、流星群共に本月注意を要するものなく、到つて淋しいけれども、黄道光、これは今後益々盛んとなつて、強い光を西天の日沈後1時間か2時間の後に現はすから、注意を怠らず愈々觀測を熱心にされん事を希望して止まぬ。